

追加在庫

A5052B-H112

360 φ迄

A5056B-H112

360 φ迄

A5083B-O

360 φ迄

A2017B-T4

360 φ迄

A6061B-T6

360 φ迄

常時在庫品揃え
寸法切・定尺共

大河内金属株式会社

尼崎事業所 尼崎市鶴町7番25号
〒660 TEL(06)6411-6852 番
-0092 FAX(06)6411-6241 番
神奈川営業所 横浜市中区山下町194
外丸ビル9F
〒231 TEL(045)663-3611 番
-0023 FAX(045)663-2770 番

日刊メタルレポート

株式会社 日刊金属新聞社

発行人 小林 恒甫

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話(06)6932-5443 代表

北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話(076)444-6836

購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円

輸出は新地金、二次合金が大幅減

輸入は新地金、スクラップが増加



橋本健一郎氏

橋本金属・アルミ 橋本健一郎氏リポート②

【概況】九月前半は、IMFが韓国成長率見通しを上方修正したこと、オバマ大統領が追加経済対策を発表したことさらに七・九月の米GDPが予測より良くなるなどの報を受け、LMEアルミは二・一七ドルと上昇。後半はFOMCの金融緩和策への言及、米新設住宅着工数・米中古住宅販売件数ともに堅調だったこと、またドイツの企業景況感指数の好調をうけユーロ懸念が後退し、ドル安に伴うテクニカル買いも相まって大幅上昇。十月一日現在、LME現物は二・三三ドルでのスタートとなった。

【八月の経済指標】

◆自動車生産台数

日本自動車工業会発表によると、自動車生産台数は前月比二〇・三％減の六九万〇、六八九台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省発表の新設住宅着工戸数は前月比四・六％増の七万二、九七二戸数であった(前年同期三・四％減)。(三面へ続く)

一〇年の世界鉄鋼需要一三％増 〇七年の水準超えへWSA

世界鉄鋼協会(WSA)は此程、都内で開幕した年次総会の冒頭、二〇一〇年の全世界の鉄鋼需要が前年比一三・一％増の二億七、二〇〇万トンになるとの見通しを発表した。これは世界的な経済危機前の〇七年実績(二億二、二〇〇万トン)を超える水準。また、一一年は同五・三％増え一億四、〇〇〇万トンに達するとみている。

一〇年の見通しに関しては、〇九年四月時点の予測から四・七ポイントの上方修正。この要因について、新興国の成長に加え、欧州(二八・九％増)や北米(三一・三％増)など先進諸国での需要が急回復するとの見方を示した。

世界の鉄鋼生産量の約半分を占める中国の一〇年の需要量は六・七％増の五億七、九〇〇万トンと、急拡大した前年(二・四・八％)に比べ伸び率は縮小する見通し。

一方、インフラや自動車などの鋼材需要が拡大するインドの需要量は、一〇年に八・二％、一一年に一三・六％といずれも前年を上回り、一一年には中国、米国に次ぎ世界第三位の鉄鋼消費国になると見込んでいる。

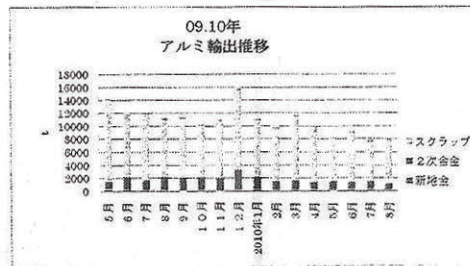
アルミスク横バイか、せいぜい小幅高か

下げ積み残しや製品販価通り難で

◆貿易指標

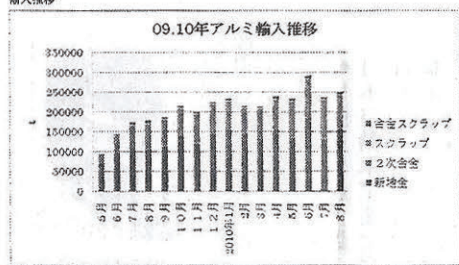
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比二〇・一％減の一七九t、二次合金は同二五・三％減の八九二t、スクラップは同八・四％増の六、九三八t。

	6月	7月	8月
輸出			
新地金	210 t	226 t	179 t
前月比	+82.6%	+7.6%	-30.1%
二次合金	1126 t	1194 t	892 t
前月比	-14%	+6%	-25.3%
スクラップ	7833 t	6400 t	6938 t
前月比	+14.6%	-18.3%	+8.4%
輸出推移			



輸入は新地金が前月比一八・三％増の一五万六、六六七t、二次合金が一〇・二％減の八万七、八七五t。アルミスクラップは五・四％増の六六六t、二次合金原料としての需要が多い、合金スクラップは一五・四％増の六、三三九t。

	5月	7月	8月
輸入			
新地金	18万5055 t	13万2410 t	15万6667 t
前月比	+36%	-28.4%	+18.3%
二次合金	9万3902 t	9万7880 t	8万7875 t
前月比	+9.3%	-1.1%	-10.2%
スクラップ	1196 t	632 t	666 t
前月比	+53.7%	-47.2%	+6.4%
合金スクラップ	749 t	551 t	639 t
前月比	+4.7%	-26.4%	+15.4%
輸入推移			



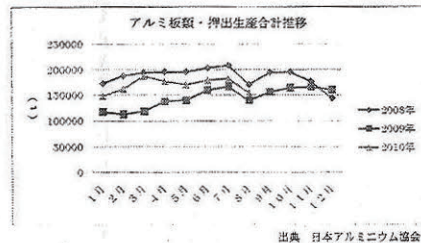
出典 財務省 貿易統計

【8月の国内指標】

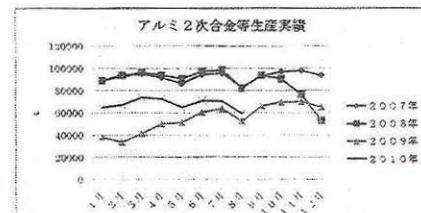
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比一五・三％減の一五万三、五七〇t（前年同期一六・三％減）。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウ

ム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比一五・四％減の五万九、五二四tであった（前年同期一七・二％減）。



出典 日本アルミニウム協会



出典 日本アルミニウム協会

【見通し】

八月は国内自動車生産台数が前月比二〇・三％減と、夏季休業を加味しても前年同期（二・三％減）からはほぼ変わらず伸び悩み、それにとらなつて二次合金生産も前年同期とほぼ変わらずとなった。

圧延・押出生産数は前月比一五・三％減の一五万三、五七〇tと、前年同期比（一六・三％減）とこちらも伸び悩み。新設住宅着工数だけは三カ月連続上昇の七万二千戸台と唯一堅調。

ファンダメンタルズは前月同様、合金輸入塊は高値水準にあるが、円高により手当てがしやすくなったことからメーカー在庫は潤沢と予想される。輸入は減税駆け込み需要を背景にアルミ地金が一八％増、合金スクラップが一五％増と大幅上昇。

LME価格については米追加景気対策が発表されたことや、FOMCの金融緩和策への期待、さらには日本への金融緩和圧力からのテクニカル買いもあり、二、一〇〇―二、五〇〇ドル台を予測。

価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては、九―十一月の自動車生産計画が前年並みとエコカー減税終了による減産がないとの予測から、メーカーの原料購買方針が一転、十月後半から買いに入る可能性が多い。ただ十一月のADC12販売が一〇円台であることや、スクラップを下げ切れていなかったことから、今月調整が入り九月後半価格に比べ据え置きから五円上げの予測。